2019
9月10日
火曜日
建設新聞

JSCA東北

鉄筋モックアップで初の発注者研修

若手職員24人が施工ミス発見に挑戦

配筋検査実習に挑む参加者

日本建築構造技術者協会（JSCA）東北支部（平山浩史支部長）は6日、宮城県大衡村にある配筋検査研修用の実物大モデル施設「鉄筋モックアップ」で、発注者向けの研修会を初めて開いた。東北各地から集まった若手職員24人は、鉄筋モックアップに散りばめられた施工上のミスを見つけ出す配筋検査実習などを通じて、技術力向上に努めた。

鉄筋モックアップは、コンクリート打設直前の配筋検査を担当する設計・工事監理者や施工者、鉄筋業者らの技術力向上とともに、若手の確保・育成につなげようと、2015年9月に完成。鉄筋工事業のサンエーテック（宮城県大衡村）が無償貸与した同社敷地内の建屋を活用している。

施設は3種類の基礎（杭基礎、ベタ基礎、直接基礎）と、地上部の柱・床・梁などの配筋状況を実物大で表現。配管などの設備も組み込み、できるだけ実際の建物に近い現場となるようにした。配筋検査の能力を高めるため、あえて施工上のミスも生じさせている。例えば、鉄筋の本数や太さ、向き、圧接状況など、さまざまな間違いが100カ所程度ちりばめられている。

今回は、東北地方整備局営繕部の呼び掛けに応え、東北整備局、青森県、岩手県、秋田県、宮城県、福島県、仙台市の営繕関係部局から合わせて24人が参加。研修では、配筋検査概要や配筋標準図のチェックポイント、間違い例などを座学で学んだ後、配筋検査実習として鉄筋モックアップでの施工上のミス発見に挑んだ。

参加希望者が多かったため、10月にも同様の研修会を開く予定だ。